

令和3年度 点検・評価報告書

学科名・専攻名 看護学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目 に対する 現状説明	看護学科の教育課程は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則った看護師及び保健師の養成カリキュラムに加え、看護学科カリキュラム・ポリシーに基づいた授業科目を配置している。令和2年度の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令に基づき、令和4年度からのカリキュラム見直し、科目の見直し、履修	令和2年度に続きコロナ禍において、効果的な教育環境を整えるための措置を講じた。「看護学部新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を学生に示し、各ガイダンスでその遵守を周知した。 ディプロマポリシーが反映されているか等、シラバスを再確認し、更にオンライン、対面、ハイブリッド等の	成績評価においては、シラバスにその基準を明記し厳格に実施するとともに、教務委員会、実習委員会、学生部委員会等において、学生の成績及びこれからの学生の学習への対応等について審議検討している。特に、前年度以前や今年度の前期必修科目に未修得科目がある学生に関して、クラス担任やアドバイザー教員が情報	第3期中期計画 N2022 の理念・目的に基づき、学生に DP を達成するための指標や方法を示し、入学から卒業までの学びの達成度を、外部アセスメント (PROG-N) を活用して定期的に測る仕組みを導入した。今年度、2年生は7月、4年生は11月に実施し、調査結果と DP を関連付け、学習効果を可視化できるようにした。 また、半期毎に各学年の GPA 分布図を作成し、学生は相対的にどの位置にいるかを確認し、	令和4年度からの新カリキュラムに向けたカリキュラム改正を学科全体で行うことができた。また、学部内に教務委員会と実習委員会を置き、教務委員会で各科目の点検・評価を行い、実習委員会で各看護学実習内容の共有、点検、評価を行っている。教務委員会では、非常勤講師が担当する科目の多くについて、専任教員で担当を割り振り、非常勤講師と連絡調整を図りながら各

令和3年度 点検・評価報告書

	年次の変更等を行ったところである。さらに、令和4年度からは数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度に適用させるためのカリキュラムの導入も行っていく予定である。	授業方法を明記して学生が学習方法を理解し、適切に受講できるようにした。オンライン授業では、VTR教材の活用、ブレイクアウトルーム機能で少人数の意見交換をするなど、アクティブラーニング型授業の展開をしている。教員と学生の双方向のやり取りが十分できるようチャットやメールを随時、活用している。演習科目は安全を確保した上、実習棟で実施する等、授業内容に応じ高い学習効果が期待できる方法で行った。臨地実習は、実習施設の指導者と協議を重ね、当該科目の目的、目標に到達するために適した様々な方法で工夫を凝らして実施している。施設からの要請で実習前にPCR	を共有し、個別面談を設けて後期の学習意欲を高める指導をしている。成績不振者への個別面談では、本学部の再試験制度を再度確認し、当該学年の必修科目を確実に修得することが重要であることを意識づけるとともに、コロナ禍において孤立しがちな学生の心理面を考慮して学習支援を行っている。	教員は学生の修学指導に活用し、特待生の選定にも活用している。 看護師等の国家試験合格に向けて、国家試験対策や学習支援に関する小委員会を設け、国家試験対策工程表を策定した。模擬試験や夏期集中講座を実施し、その結果を把握して活用し、クラス担任や卒論ゼミ担当教員が個々の学生に合わせた指導を行っている。 各科目担当教員は、双方向の授業を行う中で随時、学生の学習状況を把握及び評価し、学生自身が主体的に学習に取り組むことを支援する活動を全教員の関りをもって実施している。	科目の学習内容を確認している。特に臨床現場の医師が担当する専門基礎科目については、国家試験出題傾向を踏まえた内容の精選、依頼を行った。実習委員会では、COVID-19により臨地実習が行えず、学内実習やオンライン実習に切り替え、その実践内容を教員間で共有するためのFDを開催するなど学修到達目標に向けた取り組みを行った。 また、学修成果の可視化のため、2年次と4年次に外部アセスメント（PROG-N）を取り入れている。学生全体に共通する弱点を強化するために専任教員間で結果を共有し、担当科目内で対応するよう依頼した。
--	---	--	---	--	---

令和 3 年度 点検・評価報告書

		検査を行う場合、大学が費用負担している。			
現状説明 を 踏まえた 長所・特色	【長所】 在宅看護及び地域包括ケアの進展を見据えたカリキュラムの一部改正を行ったが、開学時より1年次において訪問看護ステーションにおける現場訪問を取り入れていたため、現状の実施内容を発展させて、地域包括ケア実習として科目立てすることができた。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度においては、象徴科目である「看護と情報」(1~4年次)の内容を充実させることで当プログラムの一部に組み入れることを検	【長所】 どの授業形態においても、アクティブラーニングの実施や VTR を用いた実践的な演習など、学生の学習を活性化する教育が行われている。	【長所】 前期の成績評価および単位認定については、大学の成績、履修に関する規程等に基づき適切に行われた。	【長所】 学修成果を可視化するための外部アセスメント (PROG-N) を 2, 4 年生で実施し、DP を関連付けた分析結果から看護学科所属学生の強み・弱みを確認できる。	【長所】 カリキュラム改正において、教育課程の見直しを行うことができた。また、教務委員会と実習委員会の両委員会で、適宜情報交換や点検、評価を行い、学科教員会に報告している。

令和3年度 点検・評価報告書

	討している。				
	【特色】 学修の初期段階で地域や生活の中での看護を見学実習することで、看護に対する視野が広がり、地域包括ケアを体感的に学ぶことができるため、3年次以降の応用実習においても生活者の視点を活かすことができる。また、看護師としてのキャリアデザインを描く際のモデルを持つことができる。	【特色】 「看護学部新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を遵守し、安全の確保をしている。	【特色】 成績不振者への面接、指導等は、学生部委員会で検討し、クラス担任やアドバイザー教員が適切な時期に個々に合わせた方法で指導する体制が整っている。	【特色】 学生の状況等について、教務委員会、実習委員会及び学生部委員会等で検討するとともに、外部アセスメントを活用し把握及び評価することで、より適切な学習効果の把握が可能となる。	【特色】 看護学科は各年次に看護学実習が配置され、順序性をもって学修を積み上げる形になっているため、講義・演習科目と実習の連携が特徴である。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 COVID-19により、対面授業の減少、臨地実習の中止を余儀なくされ、看護の基本である患者・利用者とのコミュニケーションや現場から学ぶ機会の減少が続いている。	【問題点】 基礎疾患等を有し大学への通学及び対面授業の受講にあたり不安を有している学生への配慮も行いつつ実施しているため、特に技術演習の受講について、授業形態によって学生の到達度に差が生じる	【問題点】 評価基準や試験制度についての理解が不十分な学生がいる。コロナ禍において孤立しがちな学生が、単位認定についての疑問を解決できないままに過ごしている可能性がある。	【問題点】 卒業生の DP 達成度を評価して可視化する必要があるが、方法の検討が不十分となっている。 昨年度の PROG 結果を踏まえた今年度前期授業の取り組みを検証し、今後活かす必要がある。	【問題点】 COVID-19による対面授業や臨地実習の中止に伴い学修成果が既存の授業・実習形態の時に比べてどのように変化したのか不明である。

令和 3 年度 点検・評価報告書

		可能性がある。			
	【課題】 シミュレーションを用いた学内技術演習の工夫や、実習施設の協力を得て行うリモート実習など、看護技術の習得と臨地実習に準じた体験の機会を増やす必要がある。 また、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度関連科目について、看護学科の履修と並行して行えるよう調整していく必要がある。	【課題】 ハイブリッド授業の実施方法や教育方法の更なる工夫が課題となる。また、必要な機材の充足、教員がそれらの機材を活用するために必要な技術を修得することも課題となる。	【課題】 学生の成績に関する評価、単位認定及び学位授与の適切な措置等について、全学生が十分に理解できる方法を工夫する。学生が現行カリキュラムの必修科目を配当年次に確実に修得し、令和 4 年度のカリキュラム改正以降において、現行カリキュラムの学生が必要単位を修得する際に不利益が生じないようにする。	【課題】 卒業生及び就職受け入れ先の管理者、指導者への調査を実施し、卒業生の DP 達成度を明らかにすることが必要である。 教員を対象として昨年度の PROG 結果を踏まえた今年度前期授業の取り組みに関するアンケート調査を行い、その結果に基づき今後の教育方法を検討する。教務委員会にワーキンググループを作り今年度中に進めていく。	【課題】 COVID-19 による対面授業や臨地実習の中止に伴う学修成果について評価する必要がある。 新カリキュラムの実施による教育評価を適宜行う必要がある。
根拠資料名	・2021 年度 学生ハンドブック	・看護学部新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン ・シラバス	・2021 年度 学生ハンドブック 諸規則諸規定 ・シラバス	・東京情報大学第 3 期中期計画 N2022(2019~2022) ・2021 年度 学年別看護師国家試験対策模試日程 ・2021 年度国家試験対策工程表	令和 2 年度 FD プログラム

令和3年度 点検・評価報告書

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 （☑を記入）	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	受験生向け学部紹介パンフレットやホームページ等で提示し、オープンキャンパスでの学部説明や教育内容について模擬授業（講義と演習）を行うことで、受験生と保護者がアドミッション・ポリシーに基づいた教育の理解、体験ができる企画を実施している。 推薦系入試では、アドミッション・ポリシーに沿った能力を持っている、あるいは、入学後に能力の獲得を確信できる受験生を合格させるための「グループディスカッション」をグループ面接として課している。面接中に生物基礎の口頭試問を取り入れ、看護基礎教育を受けるにふさわしい基礎学力を有しているか、多様な考えを受け入れて理解しようとし、自己の考えや感じていることを適切に表現できる能力について評価している。	2017年度から2021年度入学生までの受験形態と入学後の学習進歩状況（成績）について一元的に管理し、学部長、学科長、教務委員長、入試広報委員長、指導教員（担任）が成績リストを保管している。GPAが低いあるいは修得単位数が少ない学生については、入試形態との関連を観ながら教務委員会が中心に、学修の指導を行っている。 受け入れの適切性については、総合型選抜と公募制推薦入試に口頭試問を取り入れ、「生物基礎」科目から問題を作成し、設問への回答を評価した。学校推薦型選抜（指定校推薦）では、グループディスカッションを行うことで①他の受験生の意見を聞くことが出来るか、②自分の考えを伝えることが出来るか、③テーマに沿って深めていく姿勢があったか等の能力について評価を行った。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】 ・来場型オープンキャンパスを年7回開催し、教員と事務職員が協力して企画と運営を行っている。 ・来場者としてオープンキャンパスに参加し、受験に合格して入学してきた学生は、教員との関係性もよく、大学生活を受け入れやすい。	【長所】 ・各学生の成績を時系列で把握している指導教員と、履修科目の出席状況、履修姿勢、成績を管理している教員で、履修上の課題が生じた場合に、情報交換と指導分担を行っている。

令和3年度 点検・評価報告書

	【特色】 ・推薦系入試の合格者は合格発表後に「入学前説明会」を開催し、入学までの準備学習と入学前学習課題を説明し、初年次教育がスムーズに導入される機会を設けている。 ・学生募集方法及び入学者選抜制度や体制をパンフレットやホームページで開示するとともに、オープンキャンパスの中で説明し、入学者選抜の公正性を担保している。	【特色】 ・オープンキャンパスで、志望理由書「テーマ:入学動機や意欲、入学後の取り組みについて」の意図、記載方法、記載内容を入学後にどのように実行に移し、評価していくかについて説明し、志望理由書の意味を考える指導を行っている。また、入学後のキャンパスライフや学習の特徴について、希望者には個別指導を行い、自らの学習の動機づけに繋がるフィードバックとしての機会を提供している。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・昨年度に引き続き 2021 年度は申し込み定員制により来場者を制限したがオープンキャンパスの開催回数を増やして来場希望者の受け入れ数を確保した。しかし、規模も制限され在校生と交流する機会を設けることが出来なかった。 ・総合型選抜(未来創造型)では、「私(たち)が創造する未来の地域ケア」をテーマに 5 分間の個人でのプレゼンテーションを課している。 面接担当教員は、受験生ひとりあたり 2 名を配置し、公平性を担保するために経験知を加味した組み合わせを考慮した。面接終了後に面接担当教員が全員で各担当の評価とその根拠について意見交換をおこなったが、面接担当教員として、プレゼンテーションを聴く能力、質問する能力、受験生の意識・無意識の表現力をアセスメントできる FD 活動を計画し、実施する。	【問題点】 ・2021 年度は新型コロナウイルス感染症対策として対面授業が制限され、入試形態、出身校や出身地など、学年を超えた共通の話題について、学生間で交流する機会を設けることができなかった。 ・オープンキャンパスの設計(人員配置、企画内容、時間配分、意思疎通・チームワーク)を入試広報課と協力して、より来場者視点に立った企画への質の向上が必要である。 ・来場者からのオープンキャンパス評価(他大学との比較や来場者の期待に対する満足度)についてアンケート記載も含めた多面的評価法の導入が必要である。
	【課題】 ・受験動機が受験生本人、保護者あるいは双方の希望か不明な場合がある。また、両親や知人、医療や福祉職に携わる親族の勧めで入学してくる学生の中には「専門的学習への主体性」が備わっていない学生も散見される。 ・自己と他者への人間的関心及びコミュニケーションスキル向上への	【課題】 ・就学上の問題が、顕在化する前の「リスクの発見と対策」及び「潜在的に存在する可能性のある問題」を共有できる指導教員、科目担当者、看護師・保健師国家試験対策委員、実習指導担当者の情報共有システムの整備を進める。 ・推薦系入試合格者に対して、入学までの期間に高校の学習課題の

令和 3 年度 点検・評価報告書

	意欲は、看護基礎教育の基盤のひとつと考えられるが、「面接」等の入試だけで判断することは難しい。 ・2020 年度及び 2021 年度は、在学生の協力を得た開放型オープンキャンパスを開催できなかった。この 2 年間の経験と結果に基づき、インターネットを駆使して、遠隔地からの受験生への学部紹介に活かしたい。	振り返りを検討する。 ・各学生の入学前の学力、入学形態、入学後の成績評価について、経時的、分野別に統合し、一人一人の学生が、自己評価に基づいた目標設定と課題達成計画を立案し、科目担当教員と指導教員がサポートを行えるシステムを導入する。
根拠資料名		

令和3年度 点検・評価報告書

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目 に 対する 現状説明	ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーに基づき基盤看護分野・成育・成人看護分野・地域看護分野の3分野による組織編制されている。 指定規則改正によるカリキュラム改正、専門領域間の活動の充実を図るため、教員間で組織の見直しを行い、2022年度より基盤看護分野、成人高齢者看護分野、成育看護分野、地域看護分野の4分野に編成することを教員全体で検討した。	昨年度の退職教員の補充のため4名の教員を新規採用し、適正な学部の教育研究、運営が行われるように体制を整えた。 また、カリキュラム改正に伴い、在宅看護学領域の充実を鑑み2022年度より2人から3人体制の編成とした。	令和4年度、退職予定教員補充のための教員募集を採用計画に従い実施し、任期制教員4名、嘱託教員1名の採用について承認を得た。 1名の教員が昇格申請の承認を得て准教授から教授へ昇格、1名の教員が昇格申請の承認を得て講師から准教授に昇格予定となった。 任期制教員の面談、確認を行い、4名が専任教員へと承認された。	臨地の実習指導者を交えたファカルティ・ディベロップメント(FD)を2回開催し、各領域の実習指導についてプレゼンテーション、意見交換を行い、教員・実習指導者間で教育の質の向上に努めた。 各教員が科目ごとの授業評価アンケートを実施し、教育改善を行った。 学科教員会終了後に教員の研究紹介を定期的に行い、共同研究の可能性、教員の研究活動の活性化につなげた。 任期制教員の面談を行い、	学部の将来構想を踏まえて、より適切な組織体制の改善・構築について検討している。 2021年度から教員の研究業績、教育活動、社会貢献の実績をリサーチマップに登録してもらっている。また学部の年報を作成し、教員の各種業績等について確認する予定である。

令和3年度 点検・評価報告書

				活動状況を確認し助言・サポートを行った。	
現状説明 を 踏まえた 長所・特 色	【長所】 領域間の教育活動の連携 が得られやすい。	【長所】 学科の教員編成が維持され る。	【長所】 優秀な若手教員の採用、昇 格に伴い教育・研究の質の 充実が期待できる。	【長所】 組織全体の教育・研究の充 実・活性化につながる。	【長所】 教員の業績について可視 化できる。
	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 優秀な若手教員の採用、昇 格に伴い教育・研究の活性 化につながる。	【特色】 教員と実習指導者との連携 により学生への指導体制が 強化できる。	【特色】 なし
現状説明 を 踏まえた 問題点及 び次年度 への課題	【問題点】 2022 年度成人高齢者看 護分野の教員の欠員によ り学部教育の質保証が困 難となる事が予想され る。	【問題点】 教員の入れ替わりが多いた め、組織が不安定になりや すい。	【問題点】 退職予定の教員に対する 新規採用教員 1 名の補充 が行われなかったため、該 当領域の教員の負担が予 想され、継続的に募集が必 要である。	【問題点】 充実した FD の継続に向け てテーマ、内容について検討 する。	【問題点】 教員の研究業績確保する ための研究環境の見直し をする必要がある。
	【課題】 看護系大学の急増によ り、今後も教員確保が困 難になる事が予想され、 その方策について検討す る必要がある。	【課題】 教員間で教育・研究につい て抱えている課題を共有し 改善する必要がある。	【課題】 看護系大学の急増により、 今後も教員確保が困難に なる事が予想され、その方 策について検討する必要 がある。	【課題】 ・専任教員および臨床教員 の看護実践能力の向上のた めに、実習病院と看護連携型 ユニフィケーション事業を 導入していく。 ・ヘルスケア実践研究セン ターにおいて地域との協働 によるヘルスケアに関する 実践研究を実施する。	【課題】 教育・研究・組織運営の業 務量を可視化し、適正化 をはかる。

令和 3 年度 点検・評価報告書

根拠資料 名	2021 年度学生ハンドブック	2021 年度学生ハンドブック	2021 年度採用・昇格書類 2021 年度 期制職員面談記録 2021 年度 教授会資料	2021 年度実習指導者連絡会議資料 2021 年度教授会資料 2021 年度 任期制職員面談記録	リサーチマップ 2021 年度年報